

WEEKLY SIGNAL

平成31年3月28日(金) 1468号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	4/1(月)	4/2(火)	4/3(水)	4/4(木)	4/5(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	+ 700	+ 1,000	+ 1,000	トシ	トシ
財政他	△ 28,900	△ 15,000	△ 17,000	△ 2,000	△ 1,000
資金需給	△ 28,200	△ 14,000	△ 16,000	△ 2,000	△ 1,000
主な要因	国債発行(2年)		消費税・法人税・保険揚げ 普通交付税 国債発行(10年)	国庫短期証券発行・償還(3M)	国債発行(30年)
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,600 国債補充供給 + 1,900				
オペスタート	共通担保(全店) + 1,800 国債買入 + 7,600				
(日本)	日銀 企業短観経済観測調査 (短観、3月)	日銀 マネタレーバース(3月)			日銀 営業毎旬報告(3月31日現在) 景気動向指数(2月)
(海外)	米 ISM製造業景況指数(3月) ユーロ圏 製造業PMI(3月、改定値) ユーロ圏 失業率(2月) ユーロ圏 CPI(3月、速報値)	ユーロ圏 PPI(2月)	米 アトランタ連銀総裁、講演 米 ミネアポリス連銀総裁、講演 米 ADP雇用統計(3月) 米 ISM非製造業景況指数(3月) ユーロ圏 総合PMI(3月、改定値) ユーロ圏 サービス業PMI(3月、改定値)	米 グラブランド連銀総裁、講演 米 新規失業保険申請件数 (3月30日終了週)	G7外相会合(フランス、6日まで) 米 アトランタ連銀総裁、講演 米 雇用統計(3月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.030 ~ 0.050
SPOT 2M	△0.020 ~ 0.060
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は、週初390兆5,600億円から始まった。その後は年度末の諸費払いや国債・国庫短期証券買入れオペを主因に増加し、394兆300億円まで越えた。
無担保コールON物加重平均金利は、週初△0.062%から始まり、28日まで△0.067%~△0.064%で推移した。年度末となる29日は調達を控える先が多く、△0.08%台の取引量が減少したことから、同加重平均金利は△0.06%に上昇した。
ターム物は4月スタートの1W~2W物を中心に、主に△0.030%~△0.025%の水準で出が見られた。
経済産業省が29日に発表した2月の鉱工業生産指数速報値(2015年=100、季節調整済み)速報値は102.5ポイントと、前月から1.4%上昇した。同指数の上昇は4か月ぶりとなった。
来週の主な予定は、国内では日銀短観(3月調査)の公表(1日)や、内閣府による景気動向指数(2月)などがあり、海外ではユーロ圏CPI(3月、速報値)の公表(1日)や、米雇用統計(3月)の公表(5日)、G7外相会合(フランス、5日~6日)などがある。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.20 ~ △0.15
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約2兆5,300億円で、週間償還額(約5兆4,800億円)に対し大幅な減少となった。発行市場は、ショートタームの大型発行や月初の発行再開の動きで活況を呈した。月末の大量償還(約4兆2,000億円)に対し、新規発行は6,200億円程度に止まり、3月末残高は15兆円台後半(前年:13兆6,009億円)と思われる。発行レートは、投資家・ディーラー等の積極的な購入ニーズから、0%からマイナスでの出会いとなった。CP等買入オペが、26日に3,500億円でオファーされた。結果は、按分落札レート△0.009%・平均レート△0.005%と、前回(按分落札△0.011%・平均△0.009%)比で両レート共に上昇した。
来週の償還総額(4/1~4/5)は、2,900億円程度となっている。発行市場は、一般事業法人の発行再開の動きもあり、発行超が予想される。発行レートは、ディーラーや投資家の運用ニーズが強く、0%からマイナスレートでの出会いとなろう。CP等買入オペが、2日に2,000億円程度オファーされる予定。

<TDB>

今週の国庫短期証券市場は、入札がなく四半期末ということもあり総じて閑散としていた。セカンダリー市場では3M物は△0.17%程度、6M物は△0.19%程度となっている。来週は3日と5日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

銘柄先決めGC取引は週初△0.165%~△0.175%の出会いで始まり、週央にかけて△0.10%台前半まで上昇した。四半期末越えとなる29日受渡しは、△0.20%近辺~△0.20%台半ばが出会いの中心。1日受渡しは△0.085%~△0.095%で多く取引された。
SC取引では、カレント銘柄の10年353回債のbidが多く、国債買入オペがオファーされた1日受渡しでは、前場△0.16%~△0.17%の出会いが見られた。その他2年397・398回債、5年137・138回債、10年341・342・343・344・345・346・347・349・350・351・352回債、20年165・166・167回債、30年59・60・61回債、40年11回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。